

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) **公開特許公報 (A)**

(11)特許出願公開番号

特開平11-92335

(43)公開日 平成11年(1999)4月6日

(51)Int.Cl.*

A 61 K 7/02
7/00

織物記号

F I

A 61 K 7/02
7/00

Z
J
L

// A 61 K 7/025
7/032

7/025
7/032

審査請求 未請求 請求項の数2 FD (全7頁)

(21)出願番号 特願平9-276561
(22)出願日 平成9年(1997)9月24日

(71)出願人 000143862
株式会社コーセー
東京都中央区日本橋3丁目6番2号
(72)発明者 中林 治郎
東京都北区栄町48番18号 株式会社コーセー
一研究所内
(72)発明者 石原 由佳子
東京都北区栄町48番18号 株式会社コーセー
一研究所内

(54)【発明の名称】 油性固形化粧料

(57)【要約】

【課題】使用時に水々しい使用感が得られ、うるおい感の持続に優れた油性固形化粧料に関する。

【解決手段】部分架橋型ポリエーテル変性オルガノポリシロキサン重合物に水性成分を保持させ、特定量の油性成分を配合することにより使用時に水々しい使用感が得られ、うるおい感の持続性に優れた油性固形化粧料を提供するものである。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 次の成分(a)～(c)；

(a) 部分架橋型ポリエーテル変性オルガノポリシロキサン重合物0.01～10重量%

(b) 固体油及び／又は半固体油を全油性成分中に5～60重量%含有する油性成分40～90重量%

(c) 水性成分5～50重量%

を含有することを特徴とする油性固化形化粧料。

【請求項2】 更に、(d)成分として粉体を含有することを特徴とする請求項1記載の油性固化形化粧料。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、使用時に水々しい使用感が得られ、うるおい感の持続に優れた油性固化形化粧料に関する。

【0002】

【従来の技術】 従来、油性固化形化粧料は、油性成分及び粉体成分を中心構成されており、化粧品としての外観、使用感や使用感を得るために、種々の検討がなされている。油性固化形化粧料は、油性成分を配合しているため、しつとり感等は得られるが、水々しい使用感は得られなかつた。また、水及びコレステリルヒドロキシ脂肪酸を配合し汗飛を防止する技術が知られている(特公平4-40324号公報)。多量の水を配合すると、系の安定性が悪くなるという欠点があつた。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 多量の水を配合する技術として、ペースト状シリコーン組成物を用いて、油性マークアップ化粧料に水を配合するもの(特開平5-139929号公報)があるが、油を多量に配合すると油っぽさがでて使用感が悪くなるという欠点があつた。そこで、水々しい使用感が得られ、うるおい感の持続性に優れた油性固化形化粧料の開発が望まれていた。

【0004】

【課題を解決するための手段】 本発明者は、上記実験に鑑み、鏡意検討の結果、部分架橋型ポリエーテル変性オルガノポリシロキサン重合物に水性成分を保持させ、特定量の油性成分を配合することにより使用時に水々しい使用感が得られ、うるおい感の持続性に優れた油性固

 $C_nH_{2n-1}O(C_2H_4O)_h(C_3H_6O)_iC_6H_{2n-1}$ … (A)

(式中、hは2～200の整数、iは0～200の整数、h+iは3～200の整数、mは2～6をそれぞれ示す) 表わされるポリオキシアルキレン及び／又は一般式(B)

 $R^1_jR^2_kS^1O_{(4-j-k)/2}$ … (B)(式中、R¹は前記に同じ、R²は末端に脂肪族不飽和基を有する炭素数2～10の1価炭化水素基、jは1.0≤j≤3.0、kは0.01≤k≤1.5をそれぞれ示す) 表わされるオルガノポリシロキサンとの組合せにおいて、上記一般式(1)及び／又は一般式(A)で

形化粧料が得られることを見出し本発明に至つた。

【0005】 すなわち、本発明は次の(a)～(c)成分

(a) 部分架橋型ポリエーテル変性オルガノポリシロキサン重合物0.01～10重量% (以下、単に「%」で示す。)

(b) 固体油及び／又は半固体油を全油性成分中に5～60重量%含有する油性成分40～90重量%

(c) 水性成分5～50重量%を含有することを特徴とする油性固化形化粧料を提供するものである。

【0006】

【発明の実施の形態】 以下、本発明を詳細に説明する。本発明に使用される(a)成分である部分架橋型ポリエーテル変性オルガノポリシロキサン重合物とは、オルガノハイドロジェンポリシロキサンと脂肪族不飽和基含有化合物とを付加重合させたもので、特開平4-27293号公報、特開平5-140320号公報等に記載されているものが例示される。部分架橋型ポリエーテル変性オルガノポリシロキサン重合物は、下記一般式(1)

 $R^1_aR^2_bH_cS^1O_{(4-a-b-c)/2}$ … (1)(式中、R¹は同種又は異種の炭素数1～18の非置換、又は置換のアルキル基、アリール基、アラルキル基又はハロゲン化炭化水素基、R²は一般式C₂H_{2n}O(C₂H₄O)_d(C₃H₆O)_e、R³〔ここでR³は水素原子又は炭素数1～10の飽和脂肪族炭化水素基もしくは-(C₂O)_f、R⁴は炭素数1～5の飽和脂肪族炭化水素基〕で示される基、dは2～200の整数、eは0～200の整数、d+eは3～200の整数、nは2～6をそれぞれ示す〕で示されるポリオキシアルキレン、aは1.0≤a≤2.5、bは0.01≤b≤1.0、cは0.01≤c≤1.0をそれぞれ示す〕で表わされるオルガノハイドロジェンポリシロキサン及び／又は一般式(2) $R^1_fH_gS^1O_{(4-f-g)/2}$ … (2)(式中、R¹は上記と同じ、fは1.0≤f≤3.0、gは0.01≤g≤1.5をそれぞれ示す) 表わされるオルガノハイドロジェンポリシロキサンと一般式

(A)

表わされる成分を必須成分とする重合物である。

【0007】 部分架橋型ポリエーテル変性オルガノポリシロキサン重合物は、本発明の油性固化形化粧料中に0.01～10%の範囲で配合され、好ましくは、0.1～7%である。配合量が0.01%未満では、水系成分の配合量が制限され、水々しい使用感及びうるおい感の持続に優れた油性固化形化粧料を提供する事ができない。また、油性固化形化粧料に10%を超えて配合すると使用感が重くなるため好ましくない。また、これらの部分架橋型ポリエーテル変性オルガノポリシロキサン重合物

は必要に応じて1種又は2種以上用いることができる。【0008】本発明に使用される(b)成分である油性成分の固体油としては、通常化粧品原料として許容される融点40°C以上の固体油であれば特に限定されず、炭化水素、ロウ、硬化油、高級脂肪酸、高級アルコール等が使用できる。具体的には、例えば固体パラフィンワックス、セレシングワックス、マイクロクリスタリンワックス、カルガウワックス、キャンデリラワックス、ミツロウ、モクロウ、ゲイロウ、ポリエチレンワックス、硬化ヒシ油、ロジン酸ベンタエリトリットエステル、ステアリン酸、ラウリン酸、ミリスチン酸、ベヘニン酸、セチルアルコール、ステアリルアルコール、ラウリルアルコールなどが挙げられる。

【0009】半固体油としては、通常化粧品原料として許容される25°Cでベースト状の半固体油であれば特に限定されず、炭化水素、植物油、動物油、高級脂肪酸エステル、架橋型シリコーン等が使用できる。具体的には、ワセリン、ジベンタエリトリット脂肪酸エステル、ラノリン、コレステロール脂肪酸エステル、N-ラウロイル-レーグルタミン酸ジ(コレステリル・ベヘニル・オクチルドデシル)、架橋型メチルポリシロキサン、架橋型メチルフェニルポリシロキサン、などが挙げられる。

【0010】油性成分として前記固体油及び半固体油のほかに、化粧品一般に使用される液体油、揮発性油等が使用できる。動物油、植物油、飼料油、合成油を問わらず、炭化水素類、油脂類、ロウ類、エステル類、脂肪酸類、高級アルコール類、シリコーン油類、フッ素系油、親油性界面活性剤等が挙げられる。具体的には、流動パラフィン、スクワラン、ボブリン、ワセリン、オリーブ油、ヒマシ油、ホホバ油、マカデミアンナツ油、液状ラノリン、ミリスチン酸メソブロビル、パルミチン酸イソブロビル、2-エチルヘキサン酸セチル、ミリスチン酸オクチルドデシル、トリオクタン酸ジセリル、ボリイソステアリン酸ジセリル、イソステアリン酸、オレイン酸、イソステアリルアルコール、オレイルアルコール、ジメチルポリシロキサン、メチルフェニルポリシロキサン、メチルメタリドロジエンポリシロキサン、メチルシクロポリシロキサン、バーフラオロオクタン、バーフラオロデカン、グリセリンモノステアレート、ソルビタントリステアレート等が挙げられる。

【0011】本発明に使用される油性成分は、本発明の油性固化形化粧料中に40~90%の範囲で配合され、好ましくは、40~85%である。配合量が40%未満では、油性固化形化粧料として使用性を満足し、且つ形状を保持することは困難であり、90%を超えると、水々しい使用感が得られにくくなる。更に、固体油及び/又は半固体油の配合量は、油性成分中の5~60%の範囲で配合され、好ましくは、5~50%である。配合量が5%未満では、油性固化形化粧料として形状を保持することができない。

困難あり、60%を超えると、油性固化形化粧料の使用性能が悪くなる。これらの油性成分は、必要に応じて、固体油又は半固体油の1種又は2種以上を用いることができる。

【0012】本発明に使用される(c)成分である水性成分とは、水に可溶な成分であれば何れでもよく、例えば、プロピレングリコール、1,3-ブチレングリコール、ジプロピレングリコール、ポリエチレングリコール等のグリコール類、グリセリン、ジグリセリン、ポリグリセリン等のグリセロール類、ソルビトール・マルチトール・ショ糖、ぐんぐん糖、ラクチトール等の糖類、アガーム、コンドロイナ・硫酸ナトリウム、ヒアルロン酸ナトリウム、アラビアガム、アルギン酸ナトリウム、カラギーナン、メチルセルロース、ヒドロキシアルセルロース、カルボキシメチセルセルロース、カルボキシビニルポリマー、ボリビニアルコール、ボリビニルビリドン、アルキル化カルボキシビニルポリマー、ボリアクリル酸ナトリウム等の水溶性高分子、塩化ナトリウム・塩化マグネシウム・乳酸ナトリウム等の塩類、アロエベラ、ウィッヘゼル、ハマカリス、キュウリ、レモン、ラベンダー、ローズ等の植物抽出液等及び水が挙げられ、必要に応じて、これらの1種又は2種以上を使用することができる。

【0013】発明に使用される水性成分は、本発明の油性固化形化粧料中に、5~50%の範囲で配合され、好ましくは、5~45%である。配合量が5%未満では、水々しい使用感を得ることが困難であり、50%を超えると、油性固化形化粧料の形状を安定に保持することが困難となる。又、水性成分中に水として5~100%含有することが好ましい。

【0014】また、必要に応じて成分(d)粉体を配合することも可能であり、粉体は通常化粧料に配合される粉体であれば何れでもよく、形状も球状、板状、針状等特に限定することなく配合できる。無機粉体としてはタルク、カオリン、合成マイカ、炭酸マグネシウム、炭酸カルシウム、ケイ酸アルミニウム、ケイ酸マグネシウム、ケイ酸アルミニウムマグネシウム、無水マグネシウム、硫酸バリウム、ベントナイト、スマクタイト、酸化ナトリウム、酸化亜鉛、酸化アルミニウム、ベンガラ、黄酸化鉄、黒酸化鉄、一酸化チタン、酸化クロム、コンジョウ、群青、酸化鉄雲母、酸化鉄雲母チタン、雲母チタン、オキシ塩化ビスマス等が挙げられる。有機粉体としては、タール系色素、ナイロン粉末、ポリエチレン粉末、シリコーン粉末、メチルメタクリレート、ポリテトラフルオロエチレンパウダー、ウールパウダー、シリクルパウダー、結晶セルロース、チップ糊素等が挙げられ、必要に応じて、1種又は2種以上を使用することができ、更に、複合化して使用することができる。尚、これらの化粧用粉体は、フッ素化合物、シリコーン系油剤、金属性石鹼、ロウ、油脂、炭化水素等を用いて表面処

理を施したもののがより好ましく用いられ、例えば、フッ素化合物としてはバーフルオロアルキルシラン、バーフルオロアルキルシリコン酸エステルジエタノールアミン塩、バーフルオロポリエーテル（誘導体）等が挙げられ、シリコーン系油剤としてはメチルハイドロジエンポリシリコサン、メチルポリシリコサン等が挙げられる。これらの処理は単独で、又は2種以上の処理剤を組み合わせて使用される。

【0015】その他、効果を妨げない範囲で通常化粧料に用いられている成分である界面活性剤、紫外線吸収剤、保湿剤、酸化防止剤、美容成分、防腐剤、香料などを配合することができる。界面活性剤としては、例えば、非イオン界面活性剤としては、グリセリン脂肪酸エステル及びそのアルキレングリコール付加物、ポリグリセリン脂肪酸エステル及びそのアルキレングリコール付加物、プロピレングリコール脂肪酸エステル及びそのアルキレングリコール付加物、ソルビタン脂肪酸エステル及びそのアルキレングリコール付加物、ソルビトールの脂肪酸エステル及びそのアルキレングリコール付加物、ポリアルキレングリコール脂肪酸エステル、ショ糖脂肪酸エステル、グリセリンアルキルエーテル、ポリオキシアルキレンアルキルエーテル、ポリオキシエチレンアルキルフェニルエーテル、ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油、ラノリンのアルキレングリコール付加物、ポリオキシアルキレン変性シリコーン、ポリエーテル変性シリコーン等が挙げられる。アニオン界面活性剤としては、ステアリン酸、ラウリン酸、のような脂肪酸及びそれらの無機及び有機塩、アルキルベンゼン硫酸塩、アルキルスルホン酸塩、 α -オレフィンスルホン酸塩、ジアルキルスルホン酸塩、 α -スルホン化脂肪酸塩、アシルメチルタウリン塩、N-メチル-N-アルキルタウリン塩、ポリオキシエチレンアルキルエーテル硫酸塩、ポリオキシエチレンアルキルフェニルエーテル硫酸塩、アルキル磷酸塩、ポリオキシエチレンアルキルエーテル磷酸塩、ポリオキシエチレンアルキルエーテル燐酸塩、N-アシルアミノ燐酸塩、N-アシル-N-アルキルアミノ燐酸塩、 α -アルキル置換リンゴ酸塩、アルキルスルホン酸塩等が挙げられる。両性界面活性剤としては、アミノ酸タイプやベタインタイプのカルボン酸型、硫酸エステル型、スルホン酸型、リン酸エステル型のものがあり、人体に対して安全とされるものが使用できる。例えば、N, N-ジメチル-N-アルキル-N-カルボキシルメチルアンモニウムベタイン、N, N-ジアルキルアミノアルキレンカルボン酸、N, N, N-トリアルキル-N-スルフォアルキレンアンモニウムベタイン、N, N-ジアルキル-N, N-ビス（ポリオキシ

チレン硫酸）アンモニウムベタイン、2-アルキル-1-ヒドロキシシチル-1-カルボキシメチルイミダゾリニウムベタイン等が挙げられる。

【0016】紫外線吸収剤としては、例えば、ベンゾフェノン系としては、2-ヒドロキシ-4-メトキシベンゾフェノン、2-ヒドロキシ-4-メトキシベンゾフェノン-5-スルホン酸、2-ヒドロキシ-4-メトキシベンゾフェノン-5-スルホン酸ナトリウム、2, 2'-ジヒドロキシ-4, 4'-ジメトキシベンゾフェノン、2, 2'-ジヒドロキシ-4, 4'-ジメトキシベンゾフェノン-5-スルホン酸ナトリウム、2, 4-ジヒドロキシベンゾフェノン等が挙げられ、PABA系としては、パラアミノ安息香酸、パラアミノ安息香酸エチル、パラアミノ安息香酸グリセリル、パラジメチルアルミノ安息香酸アミル、パラジメチルアミノ安息香酸-2-エチルヘキシル、パラジメチルスルホニルアルミノ安息香酸エチル等が挙げられ、ケイ皮酸系としては、 ρ -メトキシケイ皮酸-2-エチルヘキシル、4-メトキシケイ皮酸-2-エチルヘキシル等が挙げられ、サリチル酸系としては、サリチル酸-2-エチルヘキシル、サリチル酸フェニル、サリチル酸ホモサリチル等が挙げられ、その他、2-（2-ヒドロキシラーナルフェニル）ベンゾトリアゾール、4-tert-ブチル-4'-メトキシベンゾイルメタン、オキシベンゾン等が挙げられる。

【0017】保湿剤としては、(c)成分以外のもので、例えばタンパク質、ムコ多糖、コラーゲン、エラスタン、ケラチン等が挙げられる。酸化防止剤としては、例えば α -トコフェロール、アスコルビン酸等が挙げられる。美容成分としては、例えばビタミン類、消炎剤、生葉等が挙げられる。防腐剤としては、例えばパラオキシ安息香酸アルキル、フェノキシエタノール等が挙げられる。

【0018】本発明の油性固形化粧料としては、口紅、リップクリーム、ファンデーション、頬紅、アイカラー、眉墨、アイライナー、スキンケア製品、頭髪製品等が挙げられる。

【0019】

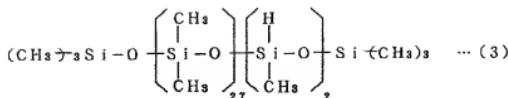
【実施例】以下、実施例により本発明を更に詳細に説明するが、本発明は、これらに限定されるものではない。

【0020】製造例1 部分架橋型ポリエーテル変性オルガノポリシリコサン重合物

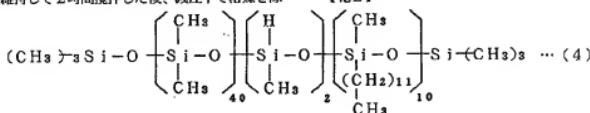
反応器中に、平均組成式(3)

【0021】

【化1】



【0022】で示されるオルガノハイドロジエンポリシリカサン100g、エタノール62g、平均組成式が $C_2H_2=CHCH_2O(C_2H_4O)_9CH_2CH=CH_2$ で示されるポリオキシアルキレン2.3、6g及び塩化白金酸3%のエタノール溶液0.3gを仕込み、内温を70~80°Cに維持して2時間搅拌した後、減圧下で溶媒を除去し、粒状の重合物を得た。



【0025】で示されるオルガノハイドロジエンポリシリカサン100g、エタノール62g、平均組成式が $C_2H_2=CHCH_2O(C_2H_4O)_9CH_2CH=CH_2$ で示されるポリオキシアルキレン2.6g及び塩化白金酸3%のエタノール溶液0.3gを仕込み、内温を70~80°Cに維持して2時間搅拌した後、減圧下で溶媒を除去し、粒状の重合物を得た。

去し、粒状の重合物を得た。

【0023】製造例2 部分架橋型ポリエーテル変性オルガノポリシリカサン重合物

反応器中に、平均組成式(4)

【0024】

【化2】

【0026】実施例1~3及び比較例1~3:口紅表1に示す組成の口紅を調製し、使用時の水々しさ、使用中のうるおい感の持続及び油性固形化粧料としての使用性について官能評価を行い、油性固形化粧料としての形状保持性を観察した。その結果も併せて表1に示す。

【0027】

【表1】

成分	実施例			比較例			(%)
	1	2	3	1	2	3	
1 製造例1の部分架橋型ポリエーテル変性オルガノポリシリカサン重合物	0.8	5	8	0.005	11	5	
2 メチルポリシリカサン(6cSt)	0.7	12	20	0.1	10.8	12	
3 ポリエーテルオキシタックス	-	2	2	-	5	1	
4 ナイアリックリラックスク	8	4	-	8	-	-	
5 マイクロクリスチラニウックス	8	5	2	10	-	1	
6 ベレシン	5	5	2	5	10	1	
7 ワセリン	15	2	-	15	-	-	
8 リオクタノン酸グリセリル	35	25	12	35	-	50	
9 リソイソステアリン酸グリセリル	12.9	12.8	4.8	17.695	-	10.9	
10 シリコン化合物処理着色顔料 *1	8	6	4	8	3	4	
11 香料	0.1	0.2	0.2	-	0.2	0.1	
12 グリセリン	1	3	3	1	10	5	
13 1, 3-ブチレングリコール	1	3	10	-	10	5	
14 制水	5	15	32	-	40	5	
評価							
イ 使用中の水々しさ	◎	◎	◎	×	◎	◎	
ロ ハリッピ感の持続性	◎	◎	◎	×	○	◎	
ハ 油性固形化粧料としての使用性	◎	◎	◎	◎	×	×	
ニ 油性固形化粧料としての形状保持性	◎	◎	◎	◎	○	×	

【0028】注1:メチルポリシリカサン・メチルハイドロジエンポリシリカサン処理(3.5%)

【0029】(製造方法)

A. 成分(1)、(2)を均一に混合した後、成分(1)

1) ~ (14) を加え、均一に混合する。	× : 14名以下
B. 成分(3) ~ (10) 加熱溶解後Aを添加し更に均一に混合する。	【0034】本発明の実施例1~3の油性固形化粧料は、油相中に(a)成分により保持された水性成分が安定に存在し、使用時には、水性成分が塗布部に広がることにより、今までの油性固形化粧料にない水々しさが得られ、表1の結果から明らかなように、比較例1~3に比べ、使用後のうるおい感の持続性、油性固形化粧料としての使用性、形状保持性の全てにおいて優れたものであった。
C. 気密容器に充填成型し、口紅を得る。	【0035】実施例4: リップクリーム
【0030】(評価方法)	(成分) (%)
評価項目:	1. 製造例1の部分架橋型ポリエーテル変性オルガノポリシロキサン重合物 4. 5
イ. 使用時の水々しさ	2. ジメチルポリシロキサン (6cSt) 10. 5
ロ. 使用後のうるおい感の持続	3. キャンデリラワックス 4
ハ. 油性固形化粧料としての形状保持性	4. セレン 3
二. 油性固形化粧料としての形状保持性	5. ヒマシ油 13
【0031】評価: 各試料について、専門パネル20名による使用テストを行ない、イ~ハについては、5段階評価の平均点に基づいて下記基準で判定した。ニについては、1ヶ月間使用後の形状を目視にて観察し、形状が保持されていると評価した人数により判定した。	6. ワセリン 10
【0032】評価基準	7. スクワラン 5
イ. 水々しい使用感	8. 防腐剤 0. 2
5点: 非常に水々しくひんやり感を感じる	9. プロビレンジリコール 7. 8
4点: 水々しくひんやり感を感じる	10. 精製水 42
3点: 水々しさを感じる	(製造方法)
2点: わずかに水々しさを感じる	A. 成分(1)、(2)を均一に混合した後、成分(8)~(10)を加え、均一に混合する。
1点: 水々しくない	B. 成分(3)~(7)加熱溶解後Aを添加し更に均一に混合する。
ロ. 使用後のうるおい感の持続	C. 気密容器に充填成型し、リップクリームを得る。
5点: 非常にうるおい感の持続を感じ、4時間程度シットリうるおった感じがする。	本発明のリップクリームは、使用時の水々しさ、使用後のうるおい感の持続、油性固形化粧料としての使用性、形状保持性の全てにおいて優れたものであった。
4点: うるおい感の持続を感じ、2時間程度シットリとうるおった感じがする。	【0036】実施例5: ファンデーション
3点: うるおい感の持続を感じ、1時間程度シットリとうるおった感じがする。	(成分) (%)
2点: わずかにうるおい感の持続を感じる。	1. 製造例2の部分架橋型ポリエーテル変性オルガノポリシロキサン重合物 0. 5
1点: うるおい感の持続を感じない。	2. ジメチルポリシロキサン (6cSt) 10
ハ. 油性固形化粧料としての形状保持性	3. トリオクタン酸グリセリル 10
5点: なめらかにひびき感なく使用できる。	4. セレンワックス 5
4点: 連和感なく使用できる。	5. マイクロクリスタリンワックス 15
3点: 使用できる。	6. 2-エチルヘキサン酸セチル 24
2点: 連和感はあるが、使用できる。	7. セスキオレイン酸ソルビタン 1
1点: 使用できない。	8. シリコーン化合物処理着色顔料 注1 10
【0033】判定基準	9. フッ素化合物処理ナイロンパウダー 注2 10
イ~ハ	10. フッ素化合物処理タルク 注3 4
◎: 4. 0点以上	11. 防腐剤 0. 2
○: 3. 0点以上4. 0点未満	12. ポリエチレンジリコール 3
△: 2. 0点以上3. 0点未満	13. 1, 3-ブチレングリコール 2
×: 2. 0点未満	14. クエン酸ソーダ 0. 3
ニ. 油性固形化粧料としての形状保持性(皿からのはみ出し、使用中の折れ、変形等の形状の崩れが無く、使用に全く支障がない)	15. 精製水 5
形状が保持されていると評価した人数	
◎: 20名	
○: 18~19名	
△: 15~17名	

注2: パーフルオロポリエーテル処理(5%)

注3: パーフルオロアルキルリン酸エステルジエタノールアミン塩処理(5%)

(製造方法)

A. 成分(1)、(2)を均一に混合した後、成分(1)1)～(15)を加え、均一に混合する。

B. 成分(3)～(10)加熱溶解後Aを添加し更に均一に混合する。

C. 直に充填後、気密容器に入れ、ファンデーションを得る。

本発明のファンデーションは、使用時の水々しさ、使用後のうるおい感の持続、油性固化化粧料としての使用性、形状保持性の全てにおいて優れたものであった。

【0037】実施例6: アイカラー&アイブロー(成分) (%)

1. 製造例1の部分架橋型ポリエーテル変性オルガノポリシロキサン重合物	3
2. ジメチルポリシロキサン(6cSt)	7
3. キャンデリラワックス	14
4. カルナウバワックス	3
5. セレンシ	5
6. トリオクタン酸グリセリル	26.8
7. トリイソステアリン酸グリセリル	10
8. 油剤処理タルク注4	5
9. チッカビニア	2

10. 着色顔料

8

11. 防腐剤

0.2

12. グリセリン

3

13. 1, 3-ブチレングリコール

3

14. 精製水

10

注4: スクワラン・マイクロクリスタリンワックス処理

(10%)

(製造方法)

A. 成分(1)、(2)を均一に混合した後、成分(1)1)～(14)を加え、均一に混合する。

B. 成分(3)～(10)加熱溶解後Aを添加し更に均一に混合する。

C. 気密容器に充填成型し、アイカラー&アイブローを得る。

本発明のアイカラー&アイブローは、使用時の水々しさ、使用後のうるおい感の持続、油性固化化粧料としての使用性、形状保持性の全てにおいて優れたものであった。

【0038】

【発明の効果】本発明の油性固化化粧料は、部分架橋型ポリエーテル変性オルガノポリシロキサン重合物に水系成分を保持させ、特定量の油性成分を配合することにより従来にない水々しい使用感と化粧後のうるおい感の持続性に優れ、油性固化化粧料としての使用性、形状保持性も良好なものである。